

解答はすべて(その七)の解答用紙に記入しなさい。

主人公の父親と母親の和美、そして中学二年生の健哉(ケン)と小学校五年生の大輔(ダイ)とは、大変仲の良い四人家族だったが、母親の和美が癌におかされ、長期入院。この日の夜、病院から、母親の容態が思わしくないの  
で、明日の朝より病院に詰めて欲しいとの電話が入った。次の文章を読み、問いに答えなさい。

お湯に浸かって、湯気のため息を溶かしていたら、ドアの向こうに人の気配がした。

「ねえ、パパ」

健哉はドアを開けずに言った。

「僕……知ってたよ、もう、だいぶ前に。ママが死んじゃうかもしれないって、わかってた。ダイもわかってた。僕に言ったりとかしてないけど、あいつもわかってたと思う」

「そうか……」

僕は音を立てないように、浴槽のお湯で顔を洗う。【A】

「何でママだったんだろっね」

健哉は涙声で笑う。

「長生きしているひと、いっぱいいるのに、なんで僕のママだけ、病気になるっちゃったんだろっね……なんでだろうね……運が悪いよね、サイテーだよ、こんなの……ママのせいじゃないのにな……」

僕はなにも応えず、今度はわざと音をたてて顔を洗った。何度も何度も、健哉がドアの前から立ち去ったあとも、ビシャビシャと飛沫を散らして顔を洗いつづけた。【B】

(中略)

風呂から上がり、歯を磨いておこうと洗面台の棚に手を伸ばした。

スタンドに立つ歯ブラシは三本。青が僕、黄緑が健哉、白が大輔。和美は入院前に、自分の赤い歯ブラシを処分していた。  
手回しがよすぎるよな、と(X)した顔が鏡に映る。鏡の中の自分と目が合うと 日常を保てなくなりそうなの  
で、そっぽを向いて、歯ブラシを取った。【C】

和美の入院前に取り替えたきり、三カ月も使いつづけてきた歯ブラシは、毛が(A)にひしゃげて広がっていた。  
健哉や大輔の歯ブラシも同じだった。

こんな歯ブラシで、子どもたちに今朝の歯磨きをさせたくはない。たしか和美は歯ブラシをいつも買い置きしていた  
はずだ……と、洗面台の吊り戸棚を開けてみた。

あった。

四本——青と、黄緑と、白と、そして赤。

パックに入ったままの赤い歯ブラシをそっと棚から取り、手のひらに載せた。まなざしが揺れる。手のひらも震える。  
退院したら使うつもりで買ったのか。つい、いつものように自分のも買ってしまったのか。それとも、病気になる前  
に買っておいたものだろうか。

和美のわが家の日常が、ここにあった。 断ち切られた日常が、ここに、確かにあった。

透き通った赤い歯ブラシを、両手で包み込むように握った。その場に膝をついて、体を倒し、肘も床について、歯ブラシに祈りをささげるような姿勢で、僕は泣いた。

和美の名を何度も呼んだ。

嫌だ、嫌だ、嫌だ、と繰り返した。

床に倒れ込み、手足をばたつかせて、僕は家族の誰よりも幼く涙を流しつづけたのだった。

夜が明けて間もない空は、重い雲がaタれこめていた。和美の願っていたその日とは、季節も、  
天気も違う。人生は思いどおりにはいかない。この歳になって、いまさらのように、噛みしめる。

受検番号

今日は長い一日になる。自分の車で病院に行くとかあって不便だし、なにより交通事故が怖い。そういうことを考える頭は回っても、クローゼットの前で、( \* ) ネクタイは持って行くんだっけ、どうだっけ、と迷ってしまい、丸めたネクタイをジャケットのポケットに入れようとして、そんなもの持って行く奴があるかバカ、と あわてて放り出した。

子どもたちに傘を持たせた。考えてみれば病院まではタクシーで向かうのだし、病院の外に子どもたちを出すこともないはずで、傘などいらなかった——家を出てから気づいた。しっかりしろよと自分を叱り、やっぱり自分で車を運転しないで正解だったな、とも思った。

マンションの前で空車のタクシーをしばらく待ったが、まだ六時過ぎなので車のボオウライはほとんどない。

「駅まで行くか。タクシー乗り場から乗ろう」

子どもたちに声をかけ、先に立って歩きだした。駅までは徒歩五分。【D】

歩きだしてほどなく、健哉と大輔がなにか言い合う声が背中に聞こえ、振り向くと、(イ)の大輔がぼくに訴えた。

「パパ、お兄ちゃん悪いよ、叱ってよ」

傘でお尻をぶたれたのだという。

「だって……」と健哉は不服そうにいう。

二人とも泣き腫らした顔をして、トーストと目玉焼きの朝食もほとんど食べられなかった。健哉は(ウ)に何度もトイレに行き、大輔の顔色も悪かった。

「どうしたんだ？」

「僕はなにもしてないのに、お兄ちゃんに叩かれたの」

「……ケン、やめるよ、そんなこと」

「違うって」

健哉は大輔をにらみつけ、僕のことにもにらんで、「もういい、ごめん、すみません、これでいい？」と早口に言っ一人でさっさと歩きだしてしまった。【E】

大輔に聞いた。大輔は健哉と並んで歩きながら、傘を持っている日はいつもそうするように、道端の雑草を傘の先で軽くつついていた。タンポポがぐれ咲いているところを通りかかって、傘で綿毛を飛ばそうとしたら、健哉が不意にお尻を叩いたのだという。

「タンポポ、咲いてたっけ」

「うん……ここ、ほら」

傘の先で指した先に、黄色い花がいくつも見えた。僕もたったいまそこを通りかかって、そもそも仕事場への行き帰りで毎日通っているはずなのに、タンポポには気づかなかった。

ちょうどいまが花の盛りのもあれば、すでに綿毛が散ったあとのものもある。綿毛がまんまるにふくらんで、いまにも風に飛ばされてしまいそうなものも、あった。

「これ、つつこうとしたのか」

「うん。だって、綿毛って遠くに飛ばしてあげたほうがいいんですよ？ そしたら、お兄ちゃん怒るんだよ、ひどいでしょ？」

僕は( X ) まじりにうなずいて、大輔の肩に手を置き、「でも、やめよう」と言った。「まだ綿毛さん、飛びたくないかもしれないだし」

「綿毛さん、って」大輔も笑い返した。

「行こう」

「ね、タンポポ、ママに持って行ってあげていい？」

少し迷ったが、「いいよ」と言ってやった。「その代わり、タンポポさんに、ごめんねって謝って摘むんだぞ」

「はい」

受検番号	
------	--

「あと、綿毛、飛ばさないように気をつけて」  
「でも、すぐ飛んじやうと思っよ」  
「すぐ飛んじやうから……ダイが飛ばさなくてもいいんだ」

健哉も大輔も、優しい子どもに育ってくれた。それは和美の手柄だ。食べ物の好き嫌いの多さと、何度言っても靴を脱ぎ散らかして家に入るところと、健哉の箸の持ち方がちょっとおかしいところと、大輔が夜の歯磨きを嫌がるころは、ぜんぶ僕のせいにしてかまわない。

健哉は一ブロック先で立ち止まり、僕たちを振り向いて待っていた。大輔はタンポポをdイチリン摘んで、ウインドブリーカーのポケットに入れた。

さあ行こう、と大輔の肩を軽く叩いて歩きだす。雲の切れ間から陽が射した。意外と天気はここから(エ)、昼間は晴れてくれるのかもしれない。

(重松清「その日」一部改めたところがある)

(一) 波線 a「タ(れ)」b「オウライ」c「ム(れ)」d「イチリン」をそれぞれ漢字に直しなさい。

(二) (ア) (イ) (エ) (ウ) に、次の指示に従い、適切なことばをそれぞれひらがなで入れなさい。

(ア) 「本来の形が崩れて、ゆがんでいる様子」という意味の、三字のことば。

(イ) 「おこった顔」という意味の、六字のことば。ただし、「つら」ということばを必ず使うこと。

(ウ) 「外出しようとする時」という意味の、三字のことば。

(エ) 「もとのいい状態にもどる」という意味の、五字のことば。

(三) 傍線 「日常を保てなくなりそうなので」とあるが、「日常を保てなくなる」とは、例えばどうなることか。文中から三十字で抜き出し、最初の五字を書きなさい。(句読点を含む)

(四) 傍線 「断ち切られた日常」とあるが、何が何によって断ち切られたのか。三十字程度で説明しなさい。(句読点を含む)

(五) (ア) (イ) (エ) (ウ) に入るもっとも適切なことばを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 黄 イ 白 ウ 青 エ 黒 オ 蝶

(六) 傍線 「あわてて放り出した」とあるが、それはどうしてか。理由としてもっとも適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア あたかも妻の死を待ち望んでいるかのようで、たいへん不吉な行為であると気づいたので。

イ 妻は女性なのでネクタイなどといったものは全く必要ないと、遅まきながら気づいたので。

ウ ネクタイは仕事場に行く時の装いであり、病院に行くにははなはだ場違いだと気づいたので。

エ 礼装で行くのは、妻のことを心配していないかのようで、かえって不謹慎だと気づいたので。

オ 妻が好きだったネクタイ姿を一目見せたかったが、今はそれどころではないと気づいたので。

(七) 傍線 「僕のことにもらんで」とあるが、それはどうしてか。理由としてもっとも適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分を叱ってばかりいる父親に腹が立ったから。

イ 自分を理解していない父親に腹が立ったから。

ウ いつも大輔の肩を持つ父親に腹が立ったから。

エ 小さなことを咎める父親に腹が立ったから。

オ 理由も聞かずに起こる父親に腹が立ったから。

(八) (ア) (イ) (エ) (ウ) に入るもっとも適切なことばを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 微笑 イ 冷笑 ウ 苦笑 エ 嘲笑 オ 失笑

受検番号	
------	--

(九) 傍線「少し迷ったが」とあるが、それはどうしてか。理由として適切なものを、次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア いまにも綿毛を飛ばしそうなタンポポを摘むには大変抵抗があったので。
- イ タンポポという大地にしっかりと根付く命を奪うことになってしまったので。
- ウ 健哉のやさしくなおかつ繊細な気持ちを傷つけることになってしまったので。
- エ 健哉と大輔との兄弟関係に決定的なひびが入ってしまったかもしれないので。
- オ ママはもつずっと以前から意識がなく、タンポポを見てもわからないので。
- カ 僕はずっと以前からタンポポの花や綿毛には特別な思い入れがあったので。

(十) 傍線「健哉も大輔も、優しい子どもに育ってくれた」とあるが、健哉と大輔の優しさとはそれぞれどのようなものか。答えとなる次の文の(あ)～(か)にあてはまることばを、本文中からそれぞれ指定された字数で抜き出して答えなさい。

【健哉の場合は、(あ) 十七字 (タンポポの) (い) 二字 (を) (う) 十一字 (自分たちの) (え) 二字 (と重ね合わせて、その) (い) にさえ同情を寄せる点であり、大輔の場合は (え) の所へタンポポの) (お) 一字 (を) (か) 八字 (ようとする点である)】

(十一) 次の一文は本文の【A】～【E】のどこに入れるのがよいか。記号で答えなさい。

【頭を冷やすにはちょうどいい。】

次の文章を読み、問いに答えなさい。

人類は、ながい原始社会の歩みのなかで、一步一步、文化を發展させていきました。原始社会の宗教も、しだいに発達してaフクザツなものになりました。(A)、先史時代の遺跡や遺物からは、原始社会の宗教について、ごく限られたことしか分かりません。そのため、古代文明が登場する以前の宗教を考える手がかりとして、発達した宗教の影響をあまり受けずに、なかば孤立した社会をつくってきた未開社会の宗教が、調査され研究されてきました。もちろん、現在の未開社会の宗教は、原始社会の宗教と同じではありませんが、未開社会にみられる宗教や呪術には、発達した宗教の観念や儀礼の原型と思われるものがあり、宗教の歩みのごくはよい段階をbスイソクすることができま。このような宗教を、原始宗教とよんでいます。

原始宗教は、ともに生産し、ともに生活する共同体が、集団としていとなむ宗教です。原始宗教のもつともたいせつな仕事は、共同体の生産を確実なものとし、共同体の生活を守るために、きまつた形で祭りなどの儀礼を行なうことです。原始宗教には、まとまつた教義もなく、集団の外にむかってその宗教を広めるということもありません。原始宗教は、政治、経済、家族などの社会制度と一体になっていることが多く、政治支配者が、そのまま宗教指導者である場合もあります。

このような形の宗教を、未開社会の研究をする民族学が明らかにした宗教という意味で民族宗教とよび、(B)、その教えをひらいた人がなく自然に生まれた宗教という意味で自然宗教ともいいます。仏教、キリスト教、イスラム教などは、教えをひらいた人があり、教義を中心とし、布教によって広がる宗教で、創唱宗教、世界宗教とよばれます。民族宗教は、創唱宗教とはちがう形の、さらに古い宗教なのです。

原始宗教は、どのような宗教観念によって成り立っているのでしょうか。原始宗教で、もっともひろくみられるのは、靈魂の崇拜です。原始宗教の社会では、人間をはじめ生物にも、石のような無生物にも、自然現象にも、すべてこれを生かしている靈魂があると信じられ、さまざまな靈魂が崇拜されています。このような観念を、ラテン語のアニマ(靈魂)からとって、アニミズムとよびます。

アニミズムは、夢のなかで、じぶんが肉体を離れて活動するのを経験したり、死体が変形して行くのは、その人を生かしていたものが去って行くためだと考えたことから生まれたといわれます。

受検番号	
------	--

靈魂は、目に見えないものとされたり、人の形で現れるものとされたり、血や息やcナイゾウと同じとされるなど、さまざまに考えられています。人間以外の生物や無生物の靈魂は、人間の靈魂になぞらえて、その存在が信じられています。靈魂は、人間の体や物のなかに存在するとともに、時にはそれから離れて存在し、意志や感情やdチカクをそなえていて、人間に働きかけるとされます。靈魂は人間と同じような存在とされ、人びとは、靈魂に働きかけて、その( X )をもとめたり、( Y )をやわらげようとします。このような靈魂が、人間や生物、無生物から完全に離れて、個性をそなえ、人間の力を超えた存在とされるようになると、原始的な神の觀念が成立します。

動物や植物の崇拜、死者の靈魂の崇拜、自然の存在や自然現象の崇拜なども、アニミズムに連なる宗教觀念です。アニミズムは、人間と同じようでありながら、しかも超人間、超自然の存在である神の觀念の原型とされます。そのため、宗教のはじまりをアニミズムであるとする説も有力です。

これにたいして、アニミズムとはまったく異なる宗教觀念がひろく行なわれていることが指摘されています。それは、あらゆる存在に宿っている目に見えない神秘的な力の觀念で、メラネシア、ポリネシアのことばからとって、マナとよばれます。マナは、ある人や物からべつの人や物に移ることができると信じられています。マナをもつ人間は、賢く なって、ふだんはもっていない力を發揮して戦いなどに勝つとされ、マナのついた槍は、敵をたやすく刺すことができると信じられています。ちょうど、野球の選手などが、「きょうはツイている」という場合に、ツイているものがマナにあたるわけです。

マナの觀念は、アニミズムとちがって、人間とはまったく無関係な、抽象的な力が、人間を支配しているとしています。呪術は、マナの觀念に連なっていますし、マナの觀念は、宇宙を普遍的で抽象的なホウソクや道が支配しているとする宗教觀念の原型とされています。マナの觀念を、アニミズムよりもさらに古い宗教觀念とし、宗教のはじまりをマナの觀念にもとめる説もあります。

いずれが古いかはきめられませんが、アニミズムとマナの觀念は、ともに原始宗教の基本となっている觀念です。この二つの世界観は、さまざまな形で結びついて発展し、原始宗教の世界をかたちづくっているのです。

原始宗教は、儀礼を中心としています。儀礼は、多くの場合、集団で、神や靈にたいして、なんらかの効果をもとめて、きまった形にしたがって行なう行為です。儀礼には、新年、夏と冬、雨期と乾期などに行なう季節儀礼、狩猟や農耕のために行なう生産儀礼、人の一生の区切り目に行なう通過儀礼などがあります。

儀礼では、神や靈に直接に働きかけるために、さまざまな飲食物や犠牲をささげ、神や靈にきめられたことばで語りかけ、それにもなう動作をします。儀礼の目的は、願いごと、感謝、取り引き、罪のあがないなどさまざまです。通過儀礼は、fタンジヨウから死にいたる人生の区切りごとに行なわれ、とくに集団の成員に仲間入りする成人式では、きびしい試練があたえられるのがふつうです。

儀礼は、收穫を確実なものにするなどの具体的な目的のために行なわれますが、同時に、集団の成員が、日常の生活を離れて儀礼に参加し、神や靈と交流する特別な時間を共有することによって、社会の連帯感を強める役割を果たします。

ふつうの儀礼は、積極的に神や靈に働きかける行為ですが、( C )、神や靈の働きを保ったり、その力を避けるために、一定の行為を禁止するタブーは、消極的儀礼ともよばれます。原始宗教の社会では、タブーは生活の全般にわたっており、タブーをおかすと超自然的な罰があると信じられています。生産や戦争についても、集団の首長についてもタブーがあり、また祭りの期間にはタブーが守られます。個人の出産、病氣、死などにも、タブーがあります。万一、タブーがおかされると、タブーをおかした者にたいして、清めの儀礼が行なわれます。

儀礼では、それぞれの目的に応じた、きまったことばが語られ、きまった動作が行なわれます。これらのことばや動作の意味は、神話によって説明されます。原始宗教には、発達した宗教にみられるような教義や神学はなく、神や靈を人間と同じような存在として、その行動を物語る神話

が、いく世代にもわたって語り伝えられます。

神話のテーマには、天地の創造、神々のはたらき、人間や動植物のはじまり、自然現象、死、男女の別、善と悪などがあり、( D )、神や靈を主人公として語られています。神話は、原始宗教の社会で、社会制度や人間の行動を、神聖性や正当性によって意味づけ価値づける役割を果

受検番号	
------	--

たしています。儀礼と神話は、たがいに影響しあつて発達して行きます。祭りなどの儀礼は、神話の世界の定期的な再現として、集団の成員のものの考え方を統一する働きをしているのです。

(村上重良『世界の宗教』一部改めたところがある)

(一) 波線 a「フクザツ」 b「スイソク」 c「ナイゾウ」 d「チカク」 e「ホウソク」 f「タンジヨウ」をそれぞれ漢字に直しなさい。

(二) ( A ) ( B ) ( C ) ( D ) に入るもつとも適切なものを、次のア～クの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア これにたいして      イ 例えば      ウ また      エ さらに  
オ しかし      カ いずれも      キ そこで      ク ゆえに

(三) 次のア～カの中で、傍線「原始宗教」と、同じものには「      」を、違うものには「x」を、それぞれ書きなさい。

ア 民族宗教      イ 古代宗教      ウ 創唱宗教      エ 政治宗教      オ 自然宗教      カ 世界宗教

(四) 傍線「原始宗教は、……成り立っているのか。八十字以上百字以内で答えなさい。(句読点を含む) 成り立っていると筆者は考えているか。八十字以上百字以内で答えなさい。(句読点を含む)

(五) ( X ) ( Y ) に入るもつとも適切な組み合わせを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア Xゆるし Yいたみ      イ Xめぐみ Yいかり      ウ Xむくい Yかなしみ  
エ Xゆるし Yよろこび      オ Xむくい Yいかり

(六) 傍線「超自然」とあるが、この三字熟語と同じ作り方のものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 反社会      イ 新快速      ウ 現実的      エ 無感動      オ 想像力

(七) 傍線「きめられたことば」とあるが、人々はどのようにしてその内容を知るのが。次のア～オの中からもつとも適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア その社会の宗教指導者による教育によって。

イ その集団の成員からの試練によって。

ウ その宗教の教義を学ぶことによって。

エ その集団に伝わる神話によって。

オ その宗教の神学を学ぶことによって。

(八) 傍線「神や霊と交流する特別な時間を共有することによって、社会の連帯感を強める役割」と同じ内容を述べている部分を、本文中から三十五字で探し、最初の五字を抜き出しなさい。(句読点を含む)

(九) 本文の内容と合うものを次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。  
ア 先史時代の遺跡や遺物からは、原始社会の宗教を考える手がかりが少ないので、我々は、当時の宗教をそのまま残している未開社会の宗教を研究してきた。

イ 原始社会の宗教にとって、もつとも大切なことは共同体の生活を守ることであり、そのために、宗教と社会制度が一体になっていることが多い。

ウ 教えをひらいた人があり、教義を中心とした原始宗教の、現在見られる姿として、キリスト教、仏教、イスラム教などが存在している。

エ あらゆる靈魂の崇拜というアニミズムよりも、あらゆるものの目に見えぬ神秘的な力を信じる方が古く、宗教の始まりとして考えられている。

オ 儀礼は原始宗教の中心であり、多くの場合、きまった形にしたがつて行なわれ、神や霊に働きかけることにより、集団にとって良い影響をもとめるものである。

カ 神話は儀礼と大きく関係しており、語り伝えられていない儀礼による神や霊への働きかけを、集団の外の人々に教える役割をもっている。

受検番号	
------	--

(一) a  
れ b  
c  
れ d

(二) (ア) (イ)  
(ウ) (エ)

(三)

(四)

(五) (六) (七) (八) (九)

(十) (あ) (い) (え)  
(お) (か) (う)

(十一)

(一) a  
b  
c  
d  
e  
f

(二) A B C D

(三) ア イ ウ エ オ カ

(四)

(五) (六) (七)

(八) (九)

得点	
受検番号	